



車いすけん引棒に驚き

高知市で「ふくし機器展」

あすまで

障害者向けの介護用「ふくし」シリーズは高知市など約千種類を全園から集めた「高知ふくし機器展」が3日、高知市朝倉の県立ふくし交流プラザで始まった。ボランティア団体「生き生きサポートセ

ンター」主催で14回目。今回の特徴は「あれば便利な防災関連グッズ」。各コーナーに被災時に役立つ用具を並べた。「車いす部門」

「楽い」「速い」と医療専門学校生がびっくりした車いすの人力車風けん引棒

(高知市朝倉、県立ふくし交流プラザ)

では長野県の会社が開発した「人力車風のけん引棒」。

ワンタッチで取り付け、前から引くことで機動力が大幅アップ。走って逃げることも可能で、利用者から「めっちゃ速い」「これは楽い」と驚きの声が出ていた。

「排泄(はいせつ)

関連部門」では「水が不要のポータブルトイレ」。「視覚部門」には、「目が不自由です。手を貸してください」と体の前後に書いた簡易ベストも。

二宮康公実行委員長(作業療法士)は「介護する側、される側とも便利な道具がいっぱい。活用してください」と訴えている。

(掛水雅彦) 四肢まひの 男性講演へ

同展では13の福祉講座(有料)も開催。4日午前10時半からは、4年前に脳梗塞で四肢まひとなった埼玉県の男性(39)が前向き人生の講演をする。